

知道 CHIDO-KAIHO 会報

70

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸 3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 西野虎之介
発行日 平成19年5月27日
通巻 第70号
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	企画	西野会長あいさつ	1
		130周年記念事業 担当委員長に聞く	2
		130周年記念事業 モニュメント制作	4
	同窓会・支部だより	32会卒業50周年記念同窓会ほか	6



水戸一高創立130周年に向けて

知道会会長 西野虎之介

代議員会議

知道会の議決機関である代議員会議が、平成19年5月12日（土）午後2時から水戸一高の会議室で開催され、常任幹事をはじめ、学年・地域・職域から70名を超える代議員が出席。130周年記念事業の内容や進め方について審議を行いました。

会議では、具体的な事業計画内容（今回の特集記事にも紹介しています）が説明され、歩く会をテーマにしたシンボルモニュメントの制作・設置、体育館の緞帳の新規調達、記念CD又はDVDの制作、記念式典・祝賀会の開催等について活発な意見交換が行われたうえで承認されました。

また、事業経費は募金をもって充てるべく、目標額を3千万円に設定し、個人、法人、地域、職域それぞれの知道会会員への働きかけを行うことが確認され、趣意書の内容が承認されました。

創立130周年記念実行委員会とその下部組織である事業別小委員会、事業委員会や式典委員会、

募金委員会は本格的な活動の段階になりました。

校内に記念事業準備委員会が発足

このたび、1年半後の記念式典に向けて、創立130周年記念事業準備委員会が、校内の組織として総勢15名のスタッフで発足いたしました。すでに本年3月28日に知道会事業委員会との合同委員会が開催され、「記念式典」をはじめ各事業の内容について活発な討議がなされました。

これからは、知道会、奨学会と連携をはかりながら、“共通のコンセンサスのもと・より具体的に、より現実的に”細部をつめていかなければならないと考えています。

鈴木悦男（昭43卒）



事業内容を討議する記念事業校内準備委員会

周知のごとく、母校の創立年月は1878（明治11）年11月であり、来年の秋は輝く創立130周年を迎えます。この間に、1945（昭和20）年の終戦を挟んで校内外の歴史に有為転変はありましたが、母校は常に伝統と改革を重ね県内随一の誇りある地位を確立して参りました。加えて、来年はOB 恩田陸さんの小説と映画化「夜のピクニック」で一躍名をはせた「歩く会」も、数えて第60回、60周年を迎えます。

10周年毎の記念事業は、水中・水戸一高の歴史と伝統を礎に新たな創造の一頁を加える節目の時であります。この一年、母校と知道会は意義ある記念事業とすべく検討を重ねて参りました。その答申が、記念式典とブロンズ像（歩く会の達成感を表現した男女二人）であり、百年史に続く30年年表作成、体育館緞帳更新、校歌・応援歌CD等であります。

最後に、会員各位の母校に寄せる熱い想いを記念事業募金活動に結集させて頂きませう、切にお願い申し上げます。

委員長に聞く

去る1月29日に開催された知道会委員長会議において130周年記念事業の推進体制が議題となり、円滑な事業推進に向けて、募金委員会、事業委員会、祝賀・式典委員会の3つの委員会の立ち上げが決まった。この3つの委員会を軸に記念事業の準備が着々と進められている中、記念事業への思いや計画概要について各委員長に伺った。

思い出に残る事業を

沼尻 滋・事業委員長（昭27卒）

我々知道会は、90周年の講堂・体育館、100周年の知道会館、110周年の在校生士気高揚資金の創設、そして120周年の江山閣の改築と、節目節目で母校の施設充実に力を注いできた。県下随一の同窓生を有する組織としての面目を大いに保ってきたと思う。長年知道会の役員としてやってきて、これだけは自信をもって言える。



これらに続くものとして、水戸一高の顔となるモニュメントの設置が決まり、日本芸術院会員である能島征二氏に制作を依頼した。学校の正面にこれまで足りなかった精神性

の象徴というものが建つことになるが、単なる象徴や風景の一部にだけはしたくないと思う。この水戸一高で学んだ一人ひとりの生活や出来事を中心に、あるいは傍らに、友人達の一人として常にあるようなものであってほしい。そのためには、設置する位置や方法に工夫が必要だ。まだ場所は未定だが、在校生達が親密に近づき写真に収められる工夫や、時によってはライトアップなども考えながら、人生の華やいだ場面の記憶の象徴となれば大成功だ。

また、ちょうどこの年は「歩く会」の60回目の記念すべき年でもある。130周年記念のもう一本の柱として、思い出に残る事業にしたい。1952年の歩く会の完歩賞として記念バッジ（写真）が配られた。いつまでも忘れないものとなっているが、今回も是非記念バッジの復活も考えたい。さらに、在校生とOBとの合同歩く会や完歩後の交流会の開催など、いつまでも記憶に残る感動的な事業に仕立て上げたいと考えている。

4月27日、平山晴雄（40卒）、粉川 勝（42卒）、鬼沢邦夫（46卒）、黒木雅宏（58卒）の委員の面々に加え、今期の「集い」の担当学年幹事（51卒、61卒、平8卒）を集め第1回の実業委員会を持ち、今年の「集い」を130周年記念事業のリハーサルと位置づけ、白熱した議論の

中で事業の具体化を進めている。

同窓会事業というのは、一人ひとりがこの学校で人生の大事な時を過ごした記憶を再現し、生きた証として後世に残していくものだ。卒業後の人生は人それぞれだが、老若男女より多くの会員が集い、力を結集して、水戸一高の歴史に留める130周年記念事業にしたいと願っている。

募金で母校に記念事業

田中 功・募金委員長（昭29卒）

母校の思い出は卒業生なら皆それぞれに持っていることでしょう。これまで節目の年度には卒業生が学校とともに記念事業を計画・実施し、120周年時には江山閣の建設など後世に残る記念事業が行われており、卒業生として誇りに思っています。



このたび、平成20年に母校が創立130年の節目の年を迎えることになり、母校のための記念事業を行いたいとの機運が盛り上がってきました。事業は資金の裏づけをもとにはじめて動き出すことができます。そこで皆さんに資金面でのご協力をいただきたいのです。

記念事業については、西野会長を

これまでの 記念事業

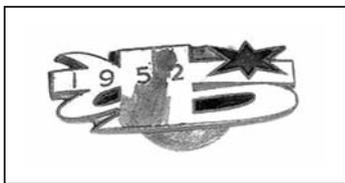
100周年記念事業

記念式典／昭和53年11月10・11・12日

会場／県民文化センター、水戸京成ホテル、水戸一高（映画）
講演／牧二郎（昭20④卒・京都大学教授）「私と物理学との出会い」

寄付金総額／151,000,000円
記念事業／知道会館建設





1952年の歩く会記念バッヂ

委員長として記念事業実行委員会
が立ち上げられており、私は副実行
委員長の1人として募金委員会を受
け持たせていただくことになりました。
募金は、個人へのお願い、企業・
個人事業主への寄付や広告掲載のお
願い、法人・地域の知道会や学年同
窓会へのお願いなどいろいろな方法
を計画しておりますが、基本は卒業
生や母校ゆかりの皆さん個人々の思
いを積み上げることでと考えて
おり、その活動を大切にしたいと思
います。

募金目標額は3千万円に設定さ
せていただきましたが、これはシン
ボルとなるモニュメントの制作や綴
帳の新調、記念式典開催などの経費
に充てるものです。知道会会員の皆
さんには趣意書と振込用紙をお送り
し、詳しくお知らせいたしますので、
募金へのご協力をどうぞよろしくお
願いたします。

私にとって母校は今なお心のふる
さどです。皆さんとともに母校のた
め、自分たちにできることをしたい
のです。

時代を超えて引き継がれる精神

五味田 優・校長（昭42卒）

母校が創立130周年の節目を迎
えようとするこのときに立ち会うこ
とができ、身の引き締まる思いがし
ております。

私は昭和
42年の卒
業で、自分
たちの高校
時代を振り
返ってみま
すと、当時
の一高生は
荒削り、よく言えばたくましかった
印象があります。本校は昭和40年
代の後半に、自由選択制や65分授
業を採用したり、制服を自由化する
など、当時の高校教育の最先端を走
り、今の水戸一高にも受け継がれる
形ができました。時代の動向や要請、
生徒の自主自立への思いに対して最
高の対応をしてきたのが本校であ
り、水戸一高は本県高校教育のリー
ディング校であり続けていると思っ
ています。



その後、私は本校に昭和59年か
ら平成4年まで国語の教員として
勤務し、さらに15年を経て校長と
して着任いたしました。今の生徒諸
君を見てみますと、時代も変わった
のでしょうか、自分たちのころと比
べて随分スマートできちんとしてい
ます。しかし、良い伝統は確実に引
き継がれており、生徒諸君のポテン
シャルは実に高いものがあると感じ
ました。

これまで、本校には多くの先輩達
が学び、生き方の基礎を培った歴史
があります。そして、本校出身の多

くの先輩が、各分野で活躍し実績を
残してきました。それは、真理を愛
する「学問第一」の校風や「自主自立」
の気風、校是である「至誠一貫」「堅
忍力行」の精神、そのような学校文
化とでも呼ぶべきものが育んだので
はないかと考えています。

創立130周年の節目の年を、こ
れまでの本校の歴史と伝統を振り返
るとともに、これからの難しい社会
を担える人材、困難に対しても夢と
希望をもってぶつかっていける人材
を引き続き育成していくため、現在
の本校の制度や形として残っている
ものの精神や本質を継承していく、
その契機としたいと考えています。

生徒諸君には学習や特別活動にお
いて、こんな経験は水戸一高以外で
はできないだろうという3年間を送
らせたい、やるべきことをやりきる、
知徳体バランスのとれた豊かな学校
生活を送らせたい、それが私の思い
です。平成16年に本校は「水戸一
高長期構想」をつくりましたが、
その中で「社会性と自己決定力を身
に付け社会に貢献できる人材」の育
成を目指すことを明らかにしていま
す。創立130周年を控え、その取
り組みを一層進めていきたいと思
います。

教職員や生徒諸君とともに、知道
会の皆様方のご協力をいただきなが
ら、全力で取り組んでまいりますの
で、宜しく願いたします。

110周年記念事業

記念式典／昭和63年10月30日
会場／県民文化センター、水戸ブ
ラザホテル
講演／金沢昭雄（昭25卒・元警
察庁長官）「日本の治安について」
寄付金総額／33,283,769円
記念事業／海外派遣事業



120周年記念事業

記念式典／平成10年11月21日
会場／県民文化センター、水戸京
成ホテル
講演／松野太郎（昭28卒・北海
道大学教授）「異常気象と地球
温暖化の予測」
寄付金総額／40,983,560円
記念事業／江山閣建設



百年後の生徒達に 伝えたいこと

日本芸術院会員・彫刻家
能島征二氏



本校創立 130 周年記念事業のメイン事業となるモニュメント制作が日本芸術院会員であり彫刻家の能島征二氏に託された。来年秋の竣工に向けて制作に励む能島氏を水戸市千波のアトリエに訪ねた。

— 130 周年記念モニュメントとして、どのような彫刻ができあがるのか。

水戸一高という本県を代表する学校の、しかも 130 周年記念事業の大きな仕事を任せられ、光栄に感じている。この話があって、水戸一高にふさわしいものをと発想を巡らしてきたが、やはり、昨年映画にもなった「歩く会」のイメージが強い。来年ちょうど 60 回という節目の年であると聞いているので、この「歩く会」をモチーフに男女の歩く姿を削り上げたいと試作を続けている。(写真参照)

— この像に込める思いは？

80 キロを歩くイベントは、県内はも

ろん全国でも希有な行事だ。長い行程を仲間と語りながら歩き、最後の坂を登りきる姿は、青春の一齣であるとともに、長い人生にも通じるものを感じた。

ナップザックを背負い、汗の上着を抱えた男女が振り上げた手で V 字を描いている。苦勞の未到達したことの喜



びと、これから歩む人生の限りない希望を表現したいと思った。

— 昨年、日本芸術院会員になられて本県美術界の中核として多忙を極めているが、制作の進行状況と完成までの日程は？

私の仕事の時間は午前中で、朝 8 時から正午まで。午後は美術展の準備とかいろいろな会議やらとまとまった時間がとれないこともあるが、立体を作り上げる彫刻にはやはり自然光、特に午前中の柔らかい光が必要だ。今、デッサンをもとに試作に没頭している。

試作というのは本体より小さな作品だが、これを作り上げる過程は作っては直しの連続で、本体の制作も並行して進み、試作の完成と本体の完成は一緒になる。ブロンズ像の原型となる石膏像が出来上がるのは今年の夏頃になるだろう。この石膏像が仕上がればお披露目できると思う。

新刊紹介

知道会事務局に寄せられた本校出身者・関係者の著作を紹介しています



辛夷の花咲くころ—長塚節生誕百二十周年記念

長塚節歌碑建立実行委員会発行

本校の前身である「茨城県尋常中学校」に学んだ歌人「長塚節」の生誕百二十年を記念して、平成 11 年 4 月、歌碑「那珂川に網曳く人ノ目モカレズ鮭ヲ待ツ如君待ツ我ハ」が千波湖畔に建立された。この事業の経過と、歌碑建立に当たって全国から寄せられた、長塚節への想いの溢れた随想や短歌などが収録されている。



政治家にならなかった政治家—NGO が政治を変える

ジャパントाइムズ
1,400 円
藤田幸久 著
(昭 44 卒)

40 カ国に及ぶ国際ボランティア活動に長年従事した著者が、「NGO—自立してどこにも属さない国民—が政治を変える」という信念から政治の道へと転身した経緯と、さまざまな人々との出会いや体験をもとに、「利権政治から、国民政治への転換」を提言する。



太平洋戦争末期の一学徒の手記

みゆび出版
上田光代 編

平成 3 年に急逝した本校の名物先生のお一人であった上田稔先生が東京文理大学（現筑波大学）在学中に書き記した手帳 3 冊が遺品の中に残されていた。13 回忌を機に、上田夫人が先生の友人達とともに上梓。終戦間近の動乱の時期に生き抜いた男子学生の日々の生活が細かく描かれている。



農民運動家としての三宅正一—その思想と行動

新郷社 1,400 円
飯田 洋 著
(昭 30 卒)

新潟県選出の革新政治家で衆議院副議長を務めた三宅正一の、戦前戦後の農民運動を経て、戦後革新陣営の重鎮として活躍した足跡を辿る。著者は、三宅と学生時代に知り合い、農民運動史の取材に協力する中で人生の師と仰ぎ、定年後の再度の大学院入学で三宅の政治活動をライフワークとして研究している。

—この像は水戸一高の正面玄関のロータリーの付近に建てられる予定であるが、一高生に伝えたいことは？

「我が道を行く」がこの像のテーマだ。入学の時、そして卒業の時、皆希望に満ちあふれている。常に自分が思い描いた夢を目指して、力いっぱい人生の道を歩いて行って欲しいというのが、この像を通して伝えたい私のメッセージだ。彫刻というものは百年のスパンで評価されるが、百年後の生徒達がこの像を見上げて何を感じ、何を心に留めるか楽しみだ。



【能島征二氏略歴】

- 1941 東京浅草に生まれる
- 1964 茨城大学（美術科）卒業
- 1969 第1回日展特選受賞
- 1979 日展会員
- 1990 第22回日展で日展会員賞受賞
- 1994 日展評議員
- 1998 茨城県美術展覧会会長
- 2000 第32回日展で文部大臣賞受賞
- 2002 茨城県美術文化功労者
- 2004 日本芸術院賞受賞
- 2006 日本芸術院会員に就任

代議員会議で第56期予算などを決定

知道会の議決機関である代議員会議が、平成18年10月29日（日）に水戸京成ホテルで開かれ、第56期（平成18年10月1日～平成19年9月30日）の事業計画や予算が決定されました。

会計報告

第55期 H17.10.1～H18.9.30
第56期 H18.10.1～H19.9.30

	項目	55期決算額	56期予算額
収入の部	収入合計	11,116,159	12,632,460
	年会費	10,234,000	11,000,000
	会員の集い会費	-	1,000,000
	寄付金	26,000	0
	預金利息	79	30
	入会金会計より繰入	500,000	500,000
	前期繰越金	356,080	132,430
支出の部	支出合計	11,116,159	12,632,460
	運営費	7,607,840	8,950,000
	会員の集い会費	664,799	1,750,000
	会議費	184,589	200,000
	事務局運営費	2,211,875	2,200,000
	通信費	2,947,183	3,200,000
	消耗品費	96,782	100,000
	旅費交通費	156,785	150,000
	渉外費	60,207	100,000
	支部強化費	540,000	450,000
	振替手数料	374,800	350,000
	年会費徴収費	208,019	200,000
	リース料	162,801	250,000
	事業費	3,375,889	3,560,000
	母校助成費	441,916	450,000
	総務委員会費	63,736	80,000
	財務委員会費	20,000	20,000
	広報委員会費	2,535,439	2,700,000
	名簿委員会費	10,000	10,000
	親睦委員会費	304,798	300,000
予備費	0	122,460	



文明への警鐘

1,000円
木村一郎 著
(昭7卒)

国内での犯罪の増加、世界各地を覆う紛争やテロ、自然災害。それらの全ては、人類が利便性や物質的豊かさを過度に追求してきた似非文明の結果であり、今こそ、真善美、協調、思いやりなど心の世界を広げる真の文明の復活を説く。



農協に明日はあるか

日本経済評論社
1,900円
先崎千尋 著
(昭36卒)

日本人の食と住まいを提供する農山漁村が疲弊し、ムラが解体していく様子を、著者は「壊死」と表現する。荒廃する農業を地域社会から頼りにされるものにかに再生するか、その役割を担う農協のあり方は？長い農協活動の経験と研究をもとに、問題提起と解決方法を模索する。



人物叢書 徳川光圀

吉川弘文館
2,100円
鈴木暎一 著
(昭32卒)

「水戸黄門」でお馴染みの二代水戸藩主水戸光圀は、大日本史編纂をはじめ、寺社改革、蝦夷地探検などさまざまな政策を打ち出し、水戸藩のみならず全国的にも名君として知られている。後世の「漫遊記」によってあまりにも偶像化された水戸光圀という人間を膨大な史料を再吟味し、その実像に迫る。



「死学」安らかな終末を、緩和医療のすすめ

小学館 1,500円
大津秀一 著
(平6卒)

治療して治る病気と治らない病気があり、その痛みと苦しみの中で死んでいくのが現実。外科手術など医療技術が日々進歩し、マスコミで取り上げられる一方で、死の苦痛を取り除く医療「ホスピス」についてはあまり知られていない。若き「ホスピス医」が、安らかな人生の終末のための緩和医療を説く。

西日本水中一高会

平成 18 年度西日本水中一高会の総会が大阪第一ホテルにおいて 12 月 9 日(土)午後 5 時 30 分より、出席者 24 名で開催されました。

今回の総会は趣向を変えて、ギターリスト下茅良氏の演奏を聴きながら、各テーブルで茨城なまりの関西弁が飛び交い、和やかな楽しいひとときを過ごすことができました。

今までの総会とは異なり若い人や女性の方も出席され、大いに賑わい、感謝しております。これを機会に今後とも出席者が増えることを期待しています。

最後に平井幸二幹事(昭 43 卒)による校歌斉唱、松本洋介幹事(平 1 卒)の音頭により万歳三唱して散会となり、名残つきない人たちは北野新地の二次会へと向かって行きました。

井内義興(昭 33 卒)

会長としての所感

平成 17 年 12 月第 5 代会長を拝命して 1 年半になりました。役員会も各年代からの若い会員にも参加してもらい、行動力のある集団が生まれました。



西日本水中一高会の星野会長

初年度は会報の創刊を第一目標に掲げ、これを西日本地区知道会会員全員に送り繋がり輪を広げる事でした。広報委員の努力により 10 月 20 日会報を創刊、愛称を「きずな」と命名、総会の案内を同封し全員に送ることが出来ました。この成果として総会にも新しい顔触れが多数参加し総会を盛り上げてくれたし水中一高会にも 20 名もの新規加入があり、所期の目標はクリア出来たと確信しております。

今年は会報の年 2 回発行、ハイキング、ミニコンサートの実施等役員会の一層の強化により魅力ある企画を立て、水戸一高創立 130 周年にあたる来年には会員 5 割増を目標に全員一致団結して頑張っ参りますので、全国の知道会の皆様応援して下さい。

星野 皓(昭 26 卒)

東京知道会

2 月 24 日(土)、東京大手町サン

ケイプラザにて招待者・同窓生約 270 名が参加し、第 51 回「同窓の集い」が、担当学年昭和 53 年卒業生の進行により盛大に開催された。

《第 1 部年次総会》八木会長の挨拶に引き続き、平成 18 年度会務及び決算報告、新役員選出が承認された。新会長：小岩井忠道氏(昭 39 卒)、新幹事長：谷田海孝男氏(昭 44 卒)。

《第 2 部講演》①薄井彰氏(昭 53 卒：早稲田大学商学大学院教授)、「日本企業が資本市場で直面していること—M&A、新規公開ディスクロージャ」、水戸一高を企業に見立てた企業価値の分析手法の説明は大変楽しいものでした。買収するとしたら何億円?との質問に、恩師の多くは「値段を付けられない」との回答、同級生の意見では「10 億から 90 億円」などであった。

②徳宿克夫氏(昭 53 卒：高エネルギー加速器研究機構教授)、「加速器で宇宙の始まりを探る—LHC 加速器とリアクター」、質量の起源と考えられているヒッグス粒子を発見しようと世界中の科学者がスイスに集まり、陽子と陽子の衝突実験を 2007 年末より始める。この粒子の発見はノーベル賞級の成果との事です、皆さん期待しましょう。

《第 3 部懇親会》特製笠間焼のぐい呑みで、水中・一高ゆかりの銘酒(稲里、松盛、菊盛、二波山松緑、白菊、酔富、月の井、東魁山、久慈の山、渡舟)を楽しみました。一寸飲みすぎた先輩も居たようでした。

(担当学年代表幹事 畑岡洋二)



東京知道会小岩井・新会長(左)と八木前会長

笠間地区知道会

4 月 7 日、会員 50 名と来賓、橋本知事、西野知道会会長、五味田校長、北條事務局長を迎えて、笠間地区総会が盛大に行われました。

役員選出では、平成 5 年より会長を務めた河村会長が顧問になり、新会長に福田実氏(昭 27 卒)が交代致しま

した。

30 年間、5 代の会長に仕え、事務局、会計を預り、大過なく過せた事は、皆様方の御協力の賜と、厚く御礼を申し上げます。今後は、後輩の皆様方に積極的に参加を頂き、知道会の伝統と、未来を見据えた地場の哲学を引き継いで、更に盛大になるように祈念致します。

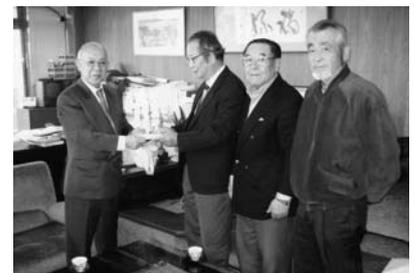


笠間知道会

26 会が「偕楽園の梅林整備」運動に寄付

26 会は毎月 12 日に例会を開いているが「水戸の梅まつり」最中の 3 月例会の席で、全国紙に掲載された「偕楽園を再び日本一の梅公園に」の募金記事が話題を呼んだ。偕楽園には現在 100 種、3000 本の梅があるが、7 年計画で 500 種に増やし、名実共に世界一の梅公園にしたいと市民グループが立ち上がり、梅の苗木購入費用の募金を広く呼びかけているとのこと。

昭和 20 年 4 月、大戦最末期に旧制水戸中学に入学、敗戦と学制改革の波の中多感な少年期を 6 年間共に学んだ我々は、卒業後 56 星霜、今や老木の梅の心境にある。若き日の向学の地水戸を代表する偕楽園に梅の若木が植え育てられ「梅の都・水戸」の名声が一段と高まることを皆で願い、26 会の名前に因んで 26 万円を寄付することに全員が賛同した。首都圏メンバーからも愛郷の念止み難しと多くの募金が集まり、3 月 19 日に 26 会会長瀬尾充完君ら代表 3 名が「偕楽園公園を愛



「偕楽園公園を愛する市民の会」の和田祐之介会長(左)に募金を手渡す 26 会のメンバー

一高だより

知事会会長褒賞52名

3年間の学校生活の中で文武両道に励み、部活動等で県の代表として県外大会等に出場し、本校の名声を高めた生徒に対する褒賞授与式が平成19年3月1日、本校卒業式のちに行われた。西野知事会会長から一人ひとり褒賞と記念品が手渡された。所属部別の受賞者は次の通り。

【棋道部】吉田理紗、鈴木亜季、篠崎梨恵

【弓道部】茂垣彬、鯉淵裕史、桑名佑生、門井寿通、二川直和

【山岳部】矢ノ倉志保、長岡洋平

【写真部】古澤集平

【吹奏楽部】海野友美、鈴木晴香、東原美希、乾杏菜、小島遙、中島光瑠、谷津彩香、渡邊真希、後藤優子、室伏麻衣、佐藤俊介、大部真央、松田尚子、菊池里美、打越茉衣、石川友紀乃、中川由希、遠藤成恵、樫村雄太

【卓球部】佐藤峻、椎名慶典、五月女楽太

【図書部】今井智子

【フェンシング部】鬼澤麻由

【放送部】楨野絵里子、館晶彦、高島綾、坂本英史、本田真菜、須藤雄太、小田倉香織、武藤翔太、中村美波、中澤朋美、原田瑤子

【陸上競技部】田神悠介、中邨友香、岩本千鈺、小林あゆみ、榎原暢恵、山口夏菜



知事会褒賞の授与式

平成19年度定期人事異動

次の方々が異動された。()内は教科と本校在職年数。

1 退職

石井則男 (副参事兼事務室長、4年)

中村五郎 (技能労務嘱託員、4年)

石浜恭子 (地歴公民、4月)

2 転出

岡崎賢治 (教頭、2年) 日立北高校長昇任

白田高士 (国語、9年) 鉦田二高へ

長岡省一 (英語、11年) 日立二高へ
松橋裕美 (国語、12年) 太田一高へ
水井英彦 (国語、1年) 水戸三高へ

3 転入

渡部則雄 (副参事兼事務室長) 水戸二高から

川又輝美 (教頭) 鹿島灘高から

青木秀則 (理科) 並木高から

萩谷一弘 (国語) 麻生高から

小林努 (地歴公民) 竜ヶ崎一高から

木城知則 (国語) 八郷高から

鈴木圭輔 (英語) 鹿島高から

大学入試の状況

平成19年度の大学入試は、324名の卒業生のうち、国立大学に142名、私立大学に延べ376名が合格し、実合格率は75.3%という結果になった。去年は62.5%、一昨年は68.1%だから高い合格率だったといえる。また、実際に大学に進学した生徒数は220名で、実進学率は67.9%と過去最高になった。旧帝大系の難関大学やほとんどの私大で昨年より大きく合格者数を増やすなど、平成19年度入試では水戸一高生はかなり健闘したといえる。

主な大学の現浪合わせた合格者数を以下に記す。()内は現役合格者数、昨年との増減は△▼で示した。

●国立大学

北海道大	9 (5)	△3
東北大	39 (32)	△18
茨城大	11 (10)	▼2
筑波大	21 (17)	▼11
千葉大	12 (9)	△3
お茶の水大	2 (2)	▼2
東京大	16 (14)	△8
東京外語大	6 (5)	0
東京学芸大	3 (3)	▼4
東京工業大	4 (2)	▼1
一橋大	2 (1)	▼2
京都大	6 (6)	△1
大阪大	2 (2)	△1

●私立大学

青山学院大	38 (12)	△23
慶應義塾大	39 (18)	▼4
上智大	13 (3)	△3
中央大	59 (33)	△26
東京理科大	75 (44)	△25
法政大	36 (20)	△3
明治大	84 (40)	△15
立教大	47 (21)	△3
早稲田大	75 (39)	▼8

する市民の会」事務局に和田祐之介会会長を訪問し、「水中一高26会」名義の賛助金を手交した。

和田会長は「広く薄く募金したいと会を立ち上げたが、26会の皆様からまとまった寄付を頂き感謝です。今春、青梅農林高校から梅の種を購入、接木して来年3月10日(水戸の日)に植樹祭を予定しています。」とお礼の言葉があった。

(8組 阿部)

32会卒業50周年記念同窓会

去る、3月18日(日)ホテルレイクビュー水戸に於いて、32会卒業50周年記念同窓会が開催されました。当日は、恩師の石塚常雄先生、高畑弘先生、母校の五味田校長先生のご臨席を頂き、同窓生103名の出席のもと盛大にして和やかな雰囲気の中、時間の経つのも忘れて楽しい時間をすごしました。

会は、萩野谷興代表幹事の挨拶に始まり、恩師の石塚常雄先生、高畑弘先生の久しぶりのお年を感じさせない元気な講義と、五味田校長による母校の現況の報告を兼ねてご挨拶をいただきました。そして一木邦彦幹事の音頭のもと、恩師のご長寿と元気で出席された同級生の健康を祝福して乾杯をあげ、祝宴となりました。

今回は、卒業50周年同窓会を記念して、在校生への士気高揚資金を50万円五味田校長におくりました。この資金は、都合により出席できなかった同級生のうち42名のカンパと出席の103名の会費より捻出したものです。士気高揚の一助となれば幸いです。

予定された時間もあっという間に過ぎてしまい、名残おしいことではありましたが、島田副幹事の音頭のもと校歌を斉唱し、再会を希うて散会いたしました。(久下沼 記)



32会卒業50周年記念同窓会

総務委員会

平成19年度「知道会会員の集い」「懇親会」の担当学年会議が4月27日に開催されました。担当学年からは、昭和51卒加茂川裕昭・昭和61年卒永井昭夫・平成8年卒永永聡美の各氏が参加致しました。今年の「知道会会員の集い」「懇親会」は、来年の水戸一高創立130周年記念事業をイメージにおいた予行との位置づけもあります。総務委員会としても、今までにない斬新な「集い」「懇親会」が出来るよう担当学年をバックアップして行きたいと考えております。

さて、「美しき国日本」をたびたび聞くようになりました。その実体のなさを感じますが、「美しき国日本」のスローガンは、時宜を得ていると思います。「美しき国日本」とは国土の美しさとそこに住む人々の心の美しさ（と立ち居振る舞いの美しさ）ではなからうかと小生は考えますがいかがでしょうか。水戸一高の「堅忍力行」「至誠一貫」はまさにそれを表現した行動指針といえます。当校で教育を受けたことを誇りに思い、そして先輩・同窓生・後輩との交流ができる場である「知道会会員の集い」「懇親会」をますます盛会に各位の参加を希望いたします。各学年の方は、この機会に「学年同窓会」や「水戸起点の旅行会」などを企画されてはいかがでしょうか。（昭42卒 粉川 勝）

財務委員会

いよいよ来年は創立130周年を迎えます。その記念事業を行うため、皆様の浄財を募るべく財務委員会を主にした募金委員会を立ち上げました。3月28日に行われた記念事業実行委員会では、個人からの募金を原則一口5千円とし、法人からの寄付（広告掲載が前提）も受け付けることにしました。

この募金をお願いするに当たり、募金委員会では、法人担当と個人担当に分け、法人担当者は、知道会が設置してある法人内の知道会代表者に、卒業生個人の募金協力を仰ぐと共に法人からの寄付もお願いすることとし、個人担当者は、地域の知道会代表者や学年代議員の方に、同様のお願いをすることにしています。

また、知道会の運営を円滑にするための年会費については、特に高齢になられた先輩方には、送金のわずらわしさを解消するため、終身会費納入制度を創設したいと考えています。いろいろお願いすることばかりであって大変恐縮に思いますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。（昭39卒 小野邦夫）

【事務局からのお願い】

1. 年会費の納入の時期について
○納入時期は、「10月から翌年の9月末」です。
○過去からの納入が無かった方は、是非、当年から結構ですので年会費を送金下さい。
2. 知道会年会費は、「知道会報」を発行している本部の会費を指しています。地域・職域などでも類似の年会費を求めています。この会費と「知道会年会費」とは異なります。
3. 物故者情報は、FAXまたはハガキでお寄せ下さい。
70号は紙面の都合上割愛しました。（新名簿をご参照下さい）

名簿委員会

間もなく印刷されて、6月末から順次発送予定の母校創立130周年記念版「知道会会員名簿」の編集作業を進めて来ましたが、色調も新たな材質、斬新なカラー文字の表紙で、すっきりした仕上がりでお目見えします。発刊にあたっては名簿予約者数や広告掲載の協力者数が気掛かりな毎日でしたが、お蔭様で広告予約数はほぼ予定件数に達し、名簿予約数はもう一步というところまで着ぎました。名簿が完成して販売が開始されますと更にご注文が増えて予定通りの発行部数となることと思っています。

ご協力いただいた方々には心から深く感謝申しあげます。

（名簿委員長 打越 芳男 昭34卒）

親睦委員会

●第28回ゴルフ大会

初めてのゴルフ場ですが、多数の参加により130周年記念行事の「はすみ」になればと思います。

期日/平成19年6月9日（土）

会場/桂が丘カントリークラブ

参加費/1人5,000円 ※プレー費 各自ご負担願います。

約10,000円 昼食（1ドリンク）、カート・キャディつき

●親睦旅行

今回は、NHK大河ドラマ「風林火山」をテーマに長野県を計画。ドラマロケ地、諏訪の浮き城、高島城、信玄への服従を誓った血判状を展示してある足島生島神社、海野宿、川中島古戦場を巡ります。お宿は信玄の隠し湯と呼ばれる横谷温泉旅館、懇親会場で職人が揚げたててんぷらとそば打ち実演で楽しませてくれます。

期日/平成19年9月2日（日）～3日（月）、1泊2日

会費/大人1人 22,000円 募集人員/35名

宿泊/蓼科温泉郷 横谷温泉旅館

※全行程貸切バス利用。朝食1回、昼食1回、夕食1回

●第4回OBミニ歩く会

笠間焼のふるさと、笠間コースといたしました。芸術の森公園を中心に、さわやかな秋の一日を歩いてみませんか。

期日/平成19年9月30日（日）※詳細は後日案内

会費/1,000円 ※簡単なお弁当をご用意いたします。

申込み・問合せ 知道会事務局へ（月・水・金）

TEL 029-226-3960 FAX 029-226-4157

【河原泰則コントラバスリサイタル】

ケルン放送響首席コントラバス奏者で、ソリストとしても活躍している河原泰則（昭42卒）さんが3年ぶりにふるさと日立で公演します。世界的に高い評価を得ている河原さんは母校の誇りです。

○日時・会場：7月8日（日）開演2：30PM

日立シビックセンター

○共演：ライナー・ホフマン（ピアノ）

○曲目：ティボル「序奏と主題と変奏」

ポッテジーニ「エレジーニ長調アレグレット・カブリッチオ」

○チケット：一般3,000円 学生1,000円

○問合せ先：Fクレフ事務局 090-2308-4337